

群 教 セ	G11 - 01
	平16.220集

先輩の話を活かし、自分の生活を 充実させようとする意欲を高める特別活動

- 進路を実現するためのヒントを集める「進路セミナー」の企画を通して -

特別研修員 高橋 徹 (赤城村立南中学校)

《研究の概要》

本研究は、「進路セミナー」の取り組みを通して、進路に関する情報を収集し、必要な情報を活用して、進路希望実現に向けて、自分の生活を充実させようとする生徒の育成を目指した実践的研究である。「体験入学報告会」をきっかけに進路に関する課題を設定し、先輩の話から課題を解決するヒントを集め、生活の改善点や努力点を見出し実施することで、自分の生活を充実させようとする意欲が高まることを明らかにしていく。

【キーワード：特別活動 中学校 学級活動 進路指導】

主題設定の理由

本校3年生67名は学習に生活に落ち着いて取り組んでいる。しかし、進路学習の場においてやや消極的であったり、自分自身の考えをもちきれていない生徒もいる。4月に行った進路に関するアンケートでは、「夢や希望をもっていない」と答えた生徒の割合が38%、「夢や希望を実現するための努力をしていない」と答えた生徒の割合が60%という結果が出た。進路選択を控え、このままでは一人一人が希望する進路の実現に向けて一人一人で考え行動できるのか指導の立場から不安を感じる。また、昨年度行われた学校評価の結果を分析したところ、「希望する進路について親子で話し合っている」という項目において、「話し合っている」と答えた生徒の割合が39%であった。教職員間でも「体験入学が生徒の進路選択に生かされないことがある」といった反省も挙げられていた。

このような状況は生徒が自分の進路を自分のこととしてとらえられていない。希望する進路について親子で話し合う機会が三者面談など限られた場面しかない。これまでの進路にかかわる学習では、働くことの意義をとらえ、自分の生き方を十分に考えることができなかった生徒がいた。ことなどが原因だと考えられる。

これらの本校の現状を改善するためには、まず、生徒に進路選択を控えたこれからの生活に向けて、自分自身の進路の実現に向けた課題を見いだせる力、その課題を解決するための情報を集める力、集めた情報を実際の生活に生かし、自分の生活を充実させようとする力を養うことが大切だと考え本主題を設定した。

研究のねらい

学級活動の時間において、進路にかかわる自分の課題を見出すための「体験入学報告会」、先輩の話から自分のヒントを得る「進路セミナー」、今後努力したい点を考えまとめることにより、自分の生活を充実させようとする意欲が高まることを明らかにしていく。

研究の見通し

1 学級活動 「体験入学報告会」において、体験入学の感想や発見したことを「よくわかったこと」、「もっと知りたいこと」、「全体を通した感想」の3つの視点に沿って報告させることにより、それぞれの高校の特色について理解が深まっていけば、自分の進路を実現していく上で乗り越えていかなければならない悩みや不安といった課題を見出せるようになるだろう。

2 保護者とともに参加する学年行事「進路セミナー」において、先輩の過ごした中学校生活の様子や、現在の高校生活の様子などの話を聞き、自分の課題を解決するためのヒントを集め、自分の生活と比較すれば、今後改善したい点や努力したい点を見つけることができるようになるだろう。

3 学級活動 において、今後改善したい点や努力したい点を学校と家庭の二つの場面で具体的に考え、改善に向けた確認リストを作成・実施すれば、悩みや不安といった課題に向き合いながら、自分の小さな達成感を積み重ね、日々の生活を充実させようとする意欲が高まるだろう。

研究の内容

1 基本的な考え

(1) 「先輩の話を活かし自分の生活を充実させる」

「先輩の話」とは「進路セミナー」に参加した高校生から得られる話で、中学3年生当時の生活の様子や勉強方法、現在通っている高校の様子や高校卒業後の進路など。この話は、現在の中学3年生が抱える不安や悩みなどの課題を解決するためのヒントになるものと考え。もう一つは進路セミナーに参加した保護者に書いていただいた我が子へのメッセージ。これは、人生の先輩であり、本人の成長を心から期待し喜ぶ保護者の思いを知ることにより、生徒は希望の進路実現に向け勇気づけられるものと考え。これらの、「進路セミナー」で得た情報をもとに、中学3年生の今、進路を実現していく上で乗り越えていかなければならない課題を見出す。そして、悩みや不安など自分の課題に正面から向き合いながら、自分の希望する進路を実現するために考え行動する。具体的には、今後改善したい点や努力したい点を学校と家庭の二つの生活場面で考え、実現に向けた「確認リスト」を作成し生活のなかで考えた内容を実現すること。

(2) 「進路セミナー」

高校生をパネリストとして招き、体験入学や紹介パンフレットでは得られない生き生きとした高校生活の様子、先輩達の受験当時の苦労話、進路を切り開く喜びなど、進路に関わる情報を集める場。パネリストとして招く高校生は、様々な進路があることを生徒に気付かせるために校種、学年など幅広く選んでいく。人選や企画運営など職員と生徒の考えを十分に考慮した生徒と教師が共につくっていく進路学習の場である。また、生徒は保護者と共に「進路セミナー」に参加する。保護者と情報を共有することにより、生徒と保護者が家庭でも進路について話をする機会が増えると同時に、保護者の進路に関する不安解消の一助にもなると考える。生徒が保護者と一緒につくっていく進路学習の場でもある。

「進路セミナー」を開催する前に、「体験入学報告会」を行う。ワークシート「高校体験入学・説明会のまとめ」に、よくわかったこと、もっと知りたいこと、全体を通した感

想を整理し、報告会では ~ の3つの視点に沿って発表を行う。これにより、高校の特色について理解が深まり、今の自分にとって足りないことや不安なことといった各自の課題を見出せるものとする。報告会をするだけでは、各自の課題を見出せない生徒もいるが、「進路セミナー」に参加して、先輩の話や先輩の話を聞くことで、今まで分からなかった進路に関する課題や喜びが見えるようになり、自身の課題を見出せるようになると考える。

「進路セミナー」を開催するにあたり以下の4点に留意した。

正確な情報が収集できるようにするためのパネリストへの支援。

パネリストには「現在通学している高校についての紹介」「先輩へのアドバイス。特に、これからの生活や学習、悩み解消などについて」といった内容を話してもらえよう、あらかじめ文書で依頼した。

適切な情報を与えるためのパネリストの人選。

中学3年生が理解可能で各自が処理できる適切な量の情報を提供することに考慮してパネリストを選ぶとともに、話してもらう内容、時間などを事前に打ち合わせた。また、ワークシート「進路の悩みや不安」を使って先輩の話の聞き取りを行う。先輩の話の中から自分の課題を解決するヒントとなるキーワードをメモする。集めたキーワードをもとに、自分の生活を振り返れば、先輩と自分の違いに気付き、今後改善したい点や努力したい点を見出すことができると考える。

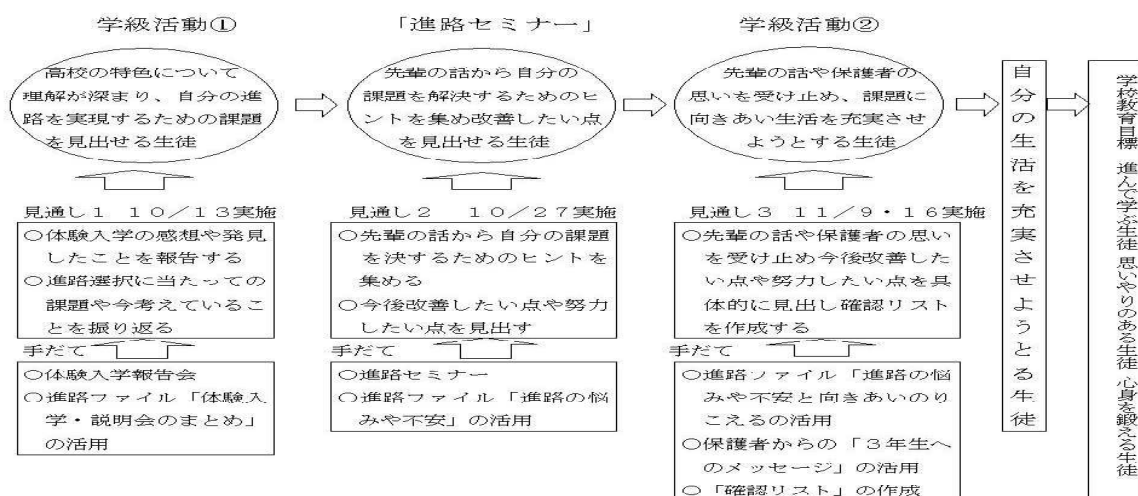
適切な時期の設定。

一人一人の進路の方向を決定する三者面談を「体験入学報告会」から二週間後に控え、また、入試を強く意識すると思われる10月下旬に設定した。

自らの判断で情報を活用する機会の確保。

「進路セミナー」後の学級活動において、先輩の話の中から得られたヒントを再確認し「進路セミナー」参加後に保護者に書いていただいた「3年生へのメッセージ」を読み、今後改善したい点や努力したい点や具体的な活動内容を学校と家庭の二つの生活場面で考え、より現実的なものを見出させていく。今までの生活を振り返り見出した、今後改善したい点や努力したい点が、実行できているかどうかを「確認リスト」で自己点検する。自分で考えた確認する項目ごとに、取り組みの様子を自己評価し感想を書く。自己評価をしたり自分の感想を書いたりすることで、達成感を積み重ねながら日々の生活を充実させようとする意欲を高めていけるものとする。

(3) 研究における題材構想図



2 実践の概要及び結果と考察

考察は、抽出生徒のワークシート「体験入学・説明会のまとめ」「進路の悩みや不安」などに記述された内容、授業の様子や感想、アンケートの結果をもとに行う。

抽出生徒 A 男は明るく学級の盛り上げ役の一人である。授業態度はまじめで提出物などは忘れたことがない。4月に行った進路に関するアンケートでは、高校進学を希望しているが「夢や希望を持っていない」「夢や希望を実現するための努力していない」と回答。進路に関する悩みや不安も「特になし」と答えていた。

(1) 「体験入学報告会」を通して進路の実現に向けた課題を見出すことができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

夏休みから10月にかけて体験入学に参加した高校のうち、今の時点で、自分が一番進学したい高校を選び、各学級で体験入学の報告会を行った。報告の視点はよく分かったこと もっと知りたいこと 全体を通しての感想の3つで、一人一人が発表した。発表は生活班単位(男女混合6名程度)で行ったので、様々な高校の様子をきくことができた班もあれば、そうでない班もあった。報告会終了後、今後の進路選択に当たって、「あなたの課題や今考えていること」などをまとめる活動を行った。

イ 結果と考察

ワークシート「体験入学・説明会のまとめ」の記述をみると、生徒の50%が、「あなたの課題や今考えていること」として、勉強方法に関わることを挙げていた。「とにかく点を取る」「いざ始めるとなると、勉強(復習)の仕方がよく分からない」「効率の良い勉強方法が知りたい」などで悩んでいる生徒が多いことが分かった。一方、記述がない生徒も20%いたが、視点「もっと知りたいこと」の欄には、「在校生の話が聞きたい」「総合学科について知りたい」などの記述が全員に見られた。

A男も「あなたの課題や今考えていること」が書けなかった一人である。しかし、報告会では視点「もっと知りたいこと」として「中学校時代の勉強方法はどうやったか」「行事はどんなものがあるか?」「先生はこわいですか?」の3つを挙げていた。また、それ以外の視点

の欄にも具体性のある内容を記述していた。授業後A男に話を聞いてみたところ「課題って何を書いたらいいかわからなかった。進路セミナーでは、高校生に勉強の仕方を聞くことにきまった。」と語った。「体験入学報告会」に用いたワークシートに上記した ~ の視点を設けたことにより、A男は体験入学で得たことを整理し発表することができた。そして、自分自身を見つめ、「もっと知りたいこと」を明らかにすることができた。

以上のことから、視点を明らかにした体験入学報告会を行ったことは、課題を見出すための意識付けとしては、有意義であったと考える。

(2) 「進路セミナー」への参加を通して、今後、改善・努力したい点を見出せたか。(見通し2)

ア 実践の概要

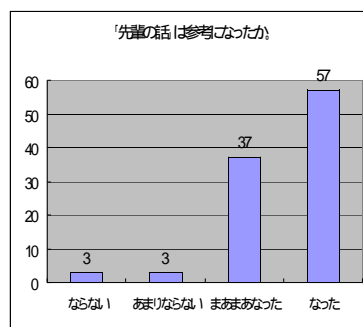
「進路セミナー」には、本校卒業生7名をパネリストとして招き、高校生活の様子や高校の紹介 高校受験の体験談 これからの時期の過ごし方や受験勉強の進め方などについて話してもらった。保護者にも参加していただいた。生徒は悩みや不安を解消するためのヒントを見つけるために、キーワードをメモしながら先輩の話を聞いた。そして、キーワードをもとに、今の自分の生活を振り返り、今後改善したい点や努力したい点を見出す活動を行った。

イ 結果と考察

ワークシート「進路の悩みや不安」の記述を見ると、先輩の話を聞き80%の生徒が自分の生活を振り返り、改善したい点や努力したい点を見出すことができた。なかには「集中力をつける」「毎日コツコツ」など具体性に乏しい努力点もあったが、全体としては前向きに取り組もうとしている姿がうかがえた。

また、「今この時期を大切に」「もっと上を目指したい」などの感想もみられ、自分のこととして進路をとらえて、改善や努力をしていこうとする意欲を感じた。「体験入学報告会」を行った際には、「あなたの課題」「今考えていること」が思い当たらないと答えたものが20%も存在したが、「進路セミナー」後は、今後改善したい点や努力したい点を見出す設問に対して、無回答は1名（後日、個別指導を実施）であった。授業後の生徒の感想に「体験が聞けて良かった」というものが半数近くあり、生の声を聞くことは大変有効であった。セミナー終了後にとったアンケートからも資料1のような結果を得ることができたので、「進路セミナー」に参加したことへの満足度は高いと考える。しかしアンケートの記述には「先輩の話はとっても良かった」の域で止まっている生徒もあり、セミナー後の学級活動で、セミナーに参加した保護者の声を使って自分の生活を振り返らせた。

資料1 「進路セミナー」終了後のアンケート結果



A男は「進路セミナー」に参加し先輩の話からたくさんのヒントを得ることができた。資料2のように、メモ欄以外にもたくさんキーワードを聞き取っていた。また、キーワードの羅列

資料2 A男のワークシート「進路の悩みや不安」の記述

2 先輩たちの話を聞いて課題や悩み・不安を解決するためのヒントをみつけよう
キーワードをメモしよう（5つ以上探してみよう）

1 予習・復習	4 自信をもつ
2 努力・集中力・コツコツ	5 集中して勉強
3 自分に厳しく	6 よく調べる

自分で考え
自分で行動
できないところは
何回も

3 キーワードをもとに、今後改善したい点や努力したい点をあげてみよう。

勉強は集中、コツコツ、努力、予習・復習そして自分に厳しく

ではあるが自分なりの改善点や努力点を見出すことができた。「進路セミナー」後の感想には「今の時期どんな勉強方法で進めたらいいのかわかって良かった。」と書かれていた。体験入学報告会のなかでA男がもっと知りたいこととして挙げていた「中学校時代の勉強方法はどうか」という問題の解決策を得

たものと考える。

(3) 今後改善したい点や努力したい点を学校と家庭の二つの場面で具体的に考え、日々の生活を充実させようとする意欲を高めることができたか。（見通し3）

ア 実践の概要

「進路セミナー」で得たキーワードと「進路セミナー」に参加していただいた保護者からのメッセージを読み、もう一度、今後改善したい点や努力したい点を考えた。学校と家庭の二つの場面で具体的に考え、グループのなかで意見の交換をした。その後、考えたことが実行できているか振り返るために、自分で「確認リスト」を作成し自己評価を行った。

イ 結果と考察

ワークシート「進路の悩みや不安と向き合いのりこえる」の記述を見ると、再検討した今後改善したい点や努力したい点は具体的なものになっていた。学校生活の場面では80%の生徒が50分間授業に集中することを改善点に挙げており、「先生の話をよく聞き、黒板に書いてなくても大切な所はメモる」といった意見もみられた。また、休み時間のつかい方にも着目し「休み時間に1つでもいいから単語を覚える」という努力点をあげたものもいた。家庭生活の場面でも、「毎日3時間以上勉強する」や「宿題は10時までには終わらす」などわかりやすい指標を示して表現する意見が半数を占めていた。一方、「過去の問題集を多く解く」「苦手教科に

毎日コツコツ取り組む」「素早く解く習慣をつける」など勉強内容に触れた意見は10%程度と少なかった。保護者からのメッセージにあった「自分に厳しく」や「目標に向かって」といった言葉を改善点のなかでつかっていたものもいたがごく少数であった。その後、生徒各自が作成した「確認リスト」の「確認項目」には、「自分のできないところを分かるようにする」「ムダな時間を過ごしていないか」など、再検討しグループのなかで発表した、改善したい点や努力したい点が示されていた。

A男は学校の場面では「授業中に積極的に手をあげる。わからない所は、そのうちに先生や友達に聞く」、家庭では「苦手教科、社会を毎日コツコツ勉強する。」ことを努力点にあげた。「進路セミナー」の時に見出した改善点よりも具体的なものになっており、生活レベルで改善点を再考させた成果だと考える。

また、後日作成した「確認リスト」の項目を見ると「わからない問題はその日のうちに聞く」や「コツコツ」といった言葉がつかわれているが、これは「進路セミナー」で先輩の話からメモしたキーワードである。また、「テレビの時間を減らす」という項目も同様に「自分に厳しく」というキーワードをA男のレベルで設定した「確認項目」である。A男の生活の中では「進路セミナー」で得た先輩の話が活かされているものとする。

資料3 A男の「確認リスト」の記述

2 進路に向けて宣言したことが実行できているか確認しよう		
学校では		
確認項目	評価	コメント
1 話をよく聞く	A	これからも続ける
2 わからない問題はその日のうちに聞く	B	理解できるまで聞く
3 1日1回は、手をあげる	B	発言を多くする
4		
確認項目	評価	コメント
1 社会をコツコツ勉強する	B	毎日やっていきたい
2 3～4時間勉強する	A	できている。これからもやっていきたい
3 集中してやる	B	時々できないことがある
4 テレビの時間を減らす	B	ちょっとずつ減らしていく

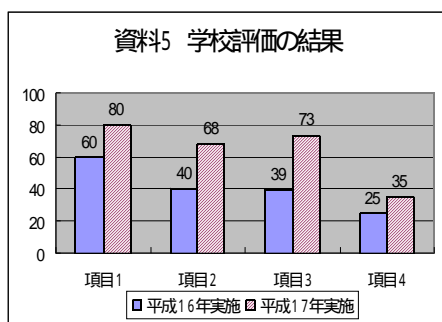
資料4 「3学期に向けて」の作文より

・・・受験生という実感が湧いてきたのは部活が終わり、9月にあった2回目の三者面談の時です。僕の場合・・・志望校もきちんと決めずにいました。受験生だと気が付いたレベルで、これまでと同じような生活を送っていました。そして、僕を完全に変えてくれたのが、高校生の先輩から話を聞く進路セミナーでした。その後の学活の授業で、僕はみんなの前である宣言をしました。・・・そのかいあって、期末テストでは自己ベスト、復習テストではベストまで後1点までせまり、勉強した分だけ成果が出ると身をもって感じました。・・・

新学期を迎えた3学期の

始業式では、学年代表生徒が、資料4の作文を発表した。その後の学級活動では、3学期の目標を立てた。ほとんどの生徒が「残りわずかな日を充実して過ごす」「一日一日の反省をしっかりと

りして、時間を大切に使う」「なまけ心に負けないように生活する」「入試に自信がつくように、計画的に勉強する」といった内容の目標を立てていた。これらの目標は、生徒が自分の希望する進路を実現するために考え行動しようとする気持ちの表れだと考える。



1月に実施した学校評価アンケートでは、昨年度の調査項目のポイントを大きく上回った結果も得られた。

項目1「進路学習や職場見学・体験を通して、自分の生き方を考えている。」

あてはまる・・・80%（前年度比+20）

項目2「進路適性検査結果などを参考にして、自分の将来設計を立てている。」

あてはまる・・・68%（前年度比+28）

項目3「将来の夢や希望する進路について、親子で話し合っている。」

あてはまる・・・73%（前年度比+34ポイント）

項目4「働くことの意義について、親子で話し合っている。」

あてはまる・・・35%（前年度比+10ポイント）

これらのことから、今後改善したい点や努力したい点を学校と家庭の二つの場面で具体的に考え、自分で「確認リスト」を作成し自分で確認させながら、教員が励ますことは、日々の生活を充実させようとする意欲を高めることに有効であると考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

進路選択を目前に控えた時期に「体験入学報告会」や「進路セミナー」に参加し、先輩達の受験当時の苦労話、進路を切り開く喜びなど、進路に関わる適切な情報を得ることにより、進路に関わる自分自身を見つめ、自分の悩みや不安をつかむことができた。

「進路セミナー」で得た情報や保護者からのメッセージを受け止め、自分の生活の中で、今後改善したい点や努力したい点を考えたり「確認リスト」を作成したりすることにより、日々の生活を充実させようとする意欲を高めることができた。

2 今後の課題

作成した「確認リスト」を実際の生活場面で使用してみるなかで、生徒が自分の小さな達成感を積み重ねられるようにするため、継続的に、教師や保護者の励ましの声を伝えるなど、支援の在り方を工夫することが課題である。

「進路セミナー」を「進学セミナー」から脱却するために、中学校での進路指導計画をどう改善していったらよいか。そして、行事である「進路セミナー」と学級活動との関連をこれからも一層重視しながら、進路指導主事として、生徒の視点に立った関連指導をどのように図っていくかが課題である。

<主な参考文献>

- ・三村 隆男 著 『キャリア教育入門』実業之日本社（2004）
- ・『進路指導』「特別企画「キャリア教育」実践報告（2）」財団法人日本進路指導協会（2004）